

5. 屋内出展展示スケジュール

いけばな展示スタンドは、華道家元池坊、いけばな小原流、いけばな草月流に依頼し、フラワーアレンジメントスタンドは、日本フラワーデザイナー協会に依頼した。また、メイン展示スタンドは、政府展示期間は池坊華道会、JFTD、日本フラワーデザイナー協会へ依頼し、その他一般展示期間は応募いただいた出展者と調整を行い、下記展示スケジュールを策定した。

日程		日本展示館 展示テーマ	いけばな展示 スタンド	メイン展示スタンド	フラワーアレンジ メントスタンド
4月29日 ～ 5月10日	12日間	春の彩り	華道家元池坊	華道家元池坊 ※政府展示	公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会
5月11日 ～ 5月24日	2週間			全国花き輸出拡大協議会	
5月25日 ～ 6月7日	2週間			株式会社サカタのタネ	
6月8日 ～ 6月21日	2週間			静岡県	
6月22日 ～ 7月5日	2週間			プリザービングフラワーズ協会	
7月6日 ～ 7月19日	2週間	夏の祭り	一般財団法人 小原流	長野県	
7月20日 ～ 8月2日	2週間			福島県／一般社団法人日本生花商協会	
8月3日 ～ 8月16日	2週間			一般社団法人日本花卉文化協会	
8月17日 ～ 8月30日	2週間			株式会社ミヨシ	
8月31日 ～ 9月13日	2週間	秋の実り	一般財団法人 草月会	一般社団法人JFTD ※政府展示	
9月14日 ～ 9月27日	2週間			北京国際園芸博覧会出展愛知実行委員会	
9月28日 ～ 10月7日	10日間			公益社団法人日本フラワーデザイナー協会 ※政府展示	

ボランティア催事参加団体一覧

日程	期間	団体名	実施内容
6月8日 ～ 6月14日	7日間	静岡県地域外交局地域外交課	展示
6月15日 ～ 6月17日	3日間	マナコフラワーアカデミー	デモンストレーション
6月24日	1日間	有限会社ニュー花矢	ワークショップ
7月6日	1日間	一般財団法人小原流	デモンストレーション

6. 屋内出展募集業務

日本の花き業界に対し、本事業の情報発信とともに出展勧奨業務を行った。

6- 1. メイン展示スタンド

地方公共団体や花き等園芸関係団体、企業等に対し特色を活かした展示を募集した。

出展者は、屋内出展テーマと各団体の出展内容との整合性や他の展示とのつながりを考慮し、決定された。

〔募集期間〕平成30年8月10日～平成30年11月16日

出展開始の3ヵ月前までに、出展が決定した団体、企業等から具体的な展示プラン（デザイン、設計図面、使用する花材等）が分かる書面を国内事務局へ提出いただき、事前協議を行った。

6- 2. コンテスト出品花き

対象花きは、基本的に日本産花き（切り花、鉢物・苗物、球根植物、植木類、盆栽、山野草等）とし、国際的にも一定の評価を得る可能性が高いもので、博覧会協会が提示するコンテストカテゴリーに合致するものとした。

6- 3. 輸出促進PR用花き

政府展示の場を活用して輸出促進のためのPRを希望される生産者や団体、育種家の方々にに対し、日本で生産または育種された輸出促進PR用出品花きの募集を行った。

〔募集期間〕平成30年12月17日～平成31年3月31日

対象花きは、切り花、鉢物・苗物、植木類、盆栽とした。

6- 4. ボランティア催事参加者

来場者に日本の園芸文化や伝統文化を体験し楽しんでもらうため、花にまつわる日本の文化紹介や催事を自己負担で企画・実施いただける個人・各種団体等を募集した。

〔募集期間〕2018年1月25日～

6- 5. 花き専門スタッフ（募集と研修）

展示会場の運営及び花きの管理、賓客／来場者の接遇等を円滑かつ適切に行うため、花きに関する知識、技術を有する花き専門スタッフを募集した。

■業務内容：展示物の日常の管理、賓客及び一般来場者への接遇（花きの準備、説明等）、ワークショップの実施、政府出展屋内展示に於ける日常の運営業務全般等

■資格：花きに関連する専門知識や業務経験を有し、上記の業務を行える方

■期間：約3ヶ月程度（前半：4月中旬～7月中旬、後半：7月中旬～10月中旬）

■人数：常時5名程度を配置（前半5名程度、後半5名程度）

■募集期間：平成30年10月5日～平成30年11月16日

■選考方法：1次審査書類選考、2次審査面接

選考の結果、前半5名、後半5名の花き専門スタッフを採用した。

花き専門スタッフについては、渡航前に国内事務局にて2月10日と11日に研修を行った。研修では、農林水産省担当官が博覧会出展の基本方針、基本計画等の説明を行ったほか、国内事務局により海外生活の心得（安全管理等）や業務研修、中国語の基本研修が行われた。

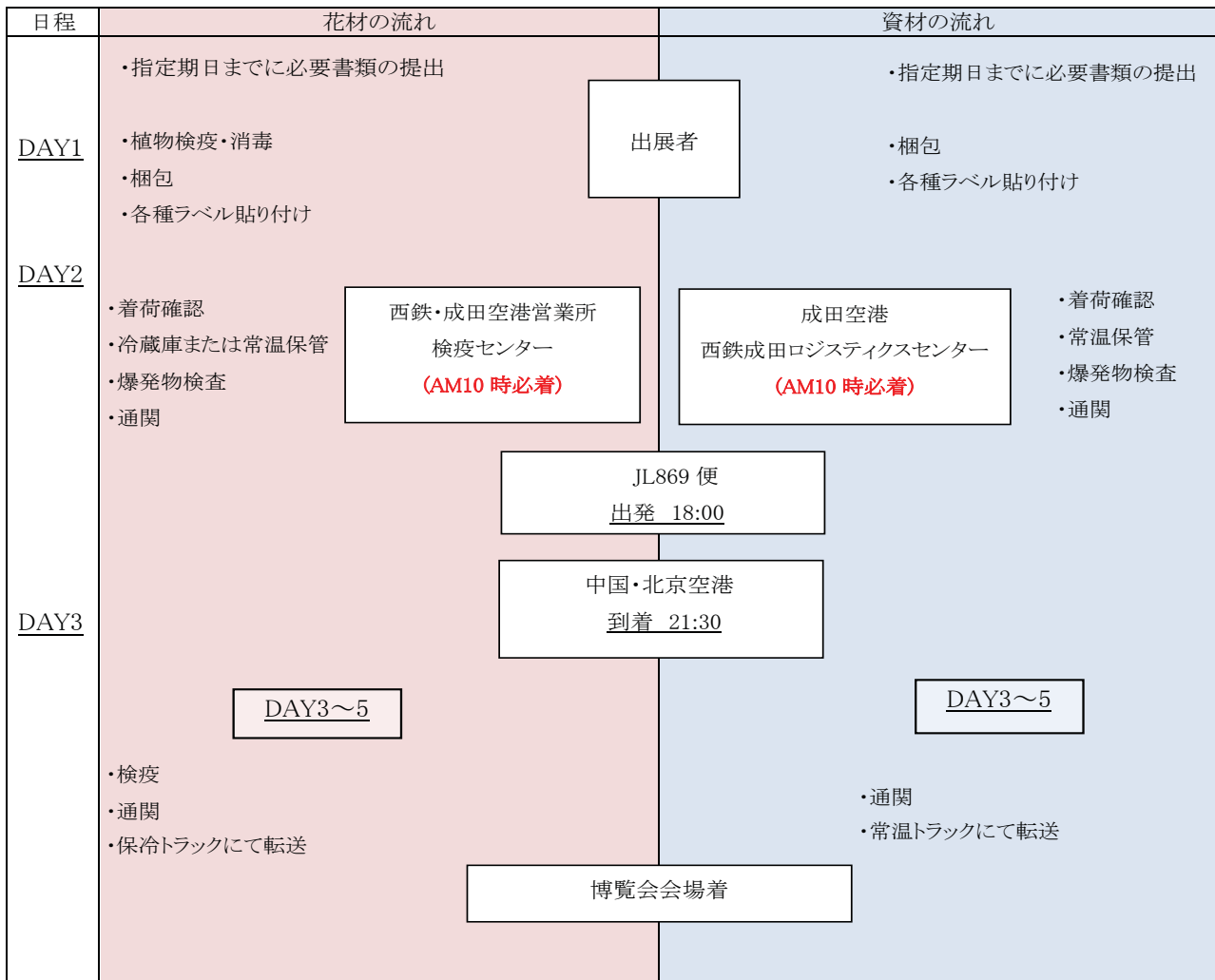
6- 6. 展示用資材協賛

政府展示に必要な展示用資材（花瓶などの花器、水揚げ剤、活力剤や花桶バケツ、装飾用のリボンやラッピング素材など）の協賛募集を行った。協賛メリットとして、屋内展示スペース内に企業名の掲出を行った。

7. 屋内出展輸送業務

7-1. 輸送フロー図

花材と資材の輸送フローについて、花材・資材とも日本から3～5日間のリードタイムでの輸送計画を行った。



7-2. 国内輸送計画

鮮度の高い花きを現地に届けるために、会場到着日やコンテスト開催日から逆算し、リードタイムの短い輸送を実現できるよう計画を行った。

出品者、出展者にもより確実な輸送をしていたため、輸送ルート、標準的なタイムスケジュール、植物の消毒・梱包、ステッカーの記入・貼付、出荷明細書の記入事項等についてまとめた輸送マニュアルを作成し配布を行った。また、輸出に必要な植物検疫やワシントン条約(CITES)等についてのアドバイスをを行うと共に、

西鉄が保有する成田の専用保税保冷库での出張検疫などと調整を行った。

国内の輸送については、東京都内の大手卸売市場（大田花き、フラワーオークションジャパン）の協力を得て、出品者、出展者は通常の市場出荷ルートを用いて大田市場まで輸送した。さらに、事前に出品予定花きをヒアリングし、調整することで、貨物のサイズを予測し、無駄のない効率的な輸送を実現した。

7- 3. 出荷手順

メイン展示スタンドの展示を行う地方公共団体や花き等園芸関係団体、民間企業等の出展者やコンテスト出品花き、輸出促進 PR 用出品花きなどの出品者に対して、花きの輸送についてのアドバイスをを行うため、コンテスト・輸出促進部会から意見をいただき、輸送に関するマニュアル「出荷手順マニュアル」を作成し、国内事務局より配布した。

出荷手順マニュアルには提出書類の作成方法や輸送ルート、リードタイム、梱包方法やラベルの貼り付け方、植物検疫相談、問い合わせ先などを記載した。特に切り花に関しては、日本から博覧会会場まで品質を保持したまま輸送できるように、採花後の前処理や予冷などの詳細、梱包内の結露対策及び水切れ防止方法なども記載した。鉢物については、栽培地検査の手順や消毒、品質保持のための梱包手順などを記載した。

- メイン展示スタンド出展者用
出荷手順マニュアル（花材・資材）
- コンテスト・輸出 PR 花材用
出荷手順マニュアル（切り花）
- コンテスト・輸出 PR 花材用
出荷手順マニュアル（鉢物）

7- 4. 通関・検疫

国際博覧会の展示物は一時輸入品として扱われる（原則、関税免除）のが通例であるが、開幕当初切り花が課税対象となっていたため、関税を支払って輸入を行った。資材については一時輸入品として輸入を行った。6月18日に北京市海関総署と協議を行い、切り花の輸入については一時輸入品として輸入することができることとなった。しかし、切り花を一時輸入品として扱うためには、日々のメンテナンス時に使用した本数、廃棄した本数の管理、輸入時の箱の

保管、指定された書類の作成等現場運営業務にかなりの負荷がかかる内容であったため、一時輸入品として扱うために掛る労力と関税を支払って輸入する場合のコストを勘案し、最終的には関税を支払って輸入するという判断に至った。結果、切り花を一時輸入品として輸入したのは1回だけとなった。

植物検疫は会場内の施設で行われた。切り花については検疫で稀に数本抜かれていたことがあったが、基本的には、箱が開けられていない状態で荷受けすることができた。根付きの植物については、システムでランダムに検疫対象を抽出しているとのことであった。検疫に掛る期間は、定められておらず、早いときは2、3日で日本展示館に届けられたが、コンテストに出品したコチョウランについては1週間以上時間がかかった。検疫が行われた3鉢については、3週間以上の時間がかかったの納品となった。

植物検疫が終わった花きは、シノトランスにより日本展示館まで配送された。また、鉢物植物にはQRコード付きのタグが付けられ、そのQRコードをスキャンするとその植物が適正に検査を受けたことが確認できるようになっていた。業務としては税関への催促、検疫済み花きの受取り、展示終了後の廃棄処分までの管理を行った。



7- 5. 荷受け

閉園後の21時30分以降に車両による搬入が行われた。オフィシャルフォワードであるシノトランスで運んだ荷物は比較的早い時間に日本展示館に到着したが、他の輸送会社での搬入は23時以降になるケースがあった。政府出展の荷物の検品は事務局スタッフ、花き専門スタッフがいき、出展者の荷物は各出展者が行った。期間を通して指定日に荷物が届かないことはなかったが、花材を運んでいるシノトランスの車両が保冷車両でないことがあったため注意を行い、以後必ず花材は保冷車で搬入されるようになった。



花きは荷受け後に記録写真の撮影を行ったのちに速やかに水揚げ作業を行い保冷コンテナに保管した。保冷コンテナに入りきれない花材については、24時間空調管理されている館内に保管した。資材は、使用するタイミングを考慮しコンテナ、ビニールハウス、館内に保管した。



7- 6. 花材・資材の廃棄処分

花材・資材の廃棄処分は、シノトランス社に随時廃棄の可否の確認をして実施した。関税を支払った花材は断裁した後に廃棄物処理業者を手配して処分を行った。一時輸入品として輸入した花きは税関立会いのもと内容を確認し、十分に断裁を行った後に廃棄物処理業者を手配し処分を行った。



資材は一時輸入品扱いとなっていたため、シノトランス社に確認し消耗品として扱われるもののみ廃棄物処理業者を手配し処分を行った。消耗品として扱われない物については、コンテナやビニールハウスにて処分の許可が出るまで保管し、最終的には寄贈することとした。開幕当初、ごみについては園内に設置してあるゴミ箱横に置いておくと博覧会のゴミ処理スタッフにより回収してもらえたが、オフィスのゴミ以外は途中で回収してもらえなくなり、定期的に廃棄物処理業者を有料で手配することとなった。